

図表3 2007年度以降開始される主要な「ご当地検定」(含む予定)

検 定 名	主 催 者	級	テキスト作成	セミナー実施	概要 (太字は特徴的な取り組み)
2007年度以降開始(予定) 8事例					
【地域学型】 4事例					
風林火山 武田検定	甲斐の国 風林火山博実行委員会	—	○	×	2007年4月開始
倉敷検定	ネイティブ倉敷プロジェクト 倉敷商工会議所	—	○	×	2007年9月開始 Web試験 テキストはWeb上で公開
神戸学検定	神戸商工会議所	初級	○	○	2007年10月開始
香住!カニ検定	香住観光協会	—	○	×	2007年10月開始
【総合型】 4事例					
鎌倉検定	鎌倉商工会議所	3級	○	○	2007年6月開始
宮もの知り達人検定	宇都宮商工会議所	—	○	×	2007年8月開始
松江・観光文化検定	松江観光文化検定試験実行委員会	—	○	×	2007年8月開始 松江商工会議所が中核
みやざき観光・文化検定	宮崎商工会議所	3級	○	○	2008年2月開始

出典：図表1と同じ

### ③総合型

第3の「総合型」はこれまで述べてきた「人材育成型」と「地域学型」の両者の目的を併せ持つ、すなわち「地域を知る」と「もてなしの質を高める」こと双方を目的に掲げるタイプの検定である。

本稿冒頭で紹介した「かごしま検定(2006年度 図表2)」はテキストを作成しセミナーを開催する、会場試験を実施する、試験には多段階の級を設定して広範な受験者の受け皿を作るとともに、より高いレベルを目指サインセンティブとする、合格者には特典を与える、といった点で、この「総合型」の典型といえる。

このタイプの原型は「ご当地検定」のブームの先鞭を切った「京都・観光文化検定」である。この検定の大成功を機に商工会議所を中心に多くの追随者(「かごしま検定」もここに含まれる。その他「岡山文化観光検定(2005年度 図表1)」、「長崎歴史文化観光検定(2005年度 図表1)」など)が生まれ、「ご当地検定」の急速な広がりにつながったといえる。また、先例に倣ってか、「観光文化検定」を名乗るケースが多いのも特徴である。

他方、「人材育成型」のような合格者に対する資格としてのフォローアップを行うよりも、この学習、試験のプロセスを通じて得たことを、業務のスキルアップであれ、地域資源の再発見であれ、各自の目的意識やニーズに合わせて活用することを奨励する傾向にある。たとえば、「京都・観光文化検定」は、要求される知識レベルに応じて「1級」から「3級」までであるが、最上級の「1級」合格者に対しては京都産業大学特別客員研究員への応募資格を付与して、その知識をより高度な形で発信したり、次世代へ承継したりする役割を期待する一方、「2級」、「3級」合格者に対しては、京都の伝統芸能に触れてもらうフォローアップの研修を希望者に用意するなど、多様なニーズに応えようとしている。

### 「ご当地検定」の動向

以上を踏まえて、図表1～3では類型化を試みている<sup>8</sup>。これらをもとに、「ご当地検定」の特徴とその最近の動向について、いくつかのポイントに絞って整理してみよう。

8 特に、「地域学型」と「総合型」は明確に区分できないところがあり、筆者の主観的判断が入っていることを予めお断りしたい。図表1～3の分類では、目的の何に重点を置いているかという判断に加え、外形的な特徴も含めて判断を試みた。